

2017年2月5日 主日礼拝説教(要旨)

聖書 ルカによる福音書 18章 24～30節

説教 「だれが救われるのだろうか」 日本キリスト教会鶴見教会牧師 高松牧人

ある議員が主イエスをたずねて質問しました。「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」。主イエスはその問いかけに、「神おひとりのほかに、善い者はだれもいない」と彼を戒めつつ、十戒後半にある掟をあげて、これらをあなたは知っているはずだと言われました。彼は、「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と答えますが、主イエスは「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている者をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それからわたしに従いなさい」と言われました。その言葉を聞いて彼は非常に悲しんだとあります。昔から、「富める青年の話」として読まれてきた出来事です。

今日の箇所はそれに続く主イエスの言葉で、「イエスは、議員が非常に悲しむのを見て、言われた」(24節)と始まります。議員の悲しみを主がご覧になったとありますが、別の翻訳では「そこでイエスは彼を見て、悲しみに沈み、言った」(佐藤研訳 新約聖書Ⅱ『ルカ文書』岩波書店)となっています。主イエスの悲しみをここに読み取ることでも大事なことはないでしょうか。主の言葉の前に立ち尽くす人の悲しみを、悲しみを覚える主イエスがおられるのです。

主イエスの言葉は、いつも私たちの耳に快く響くわけではありません。主の言葉にとまどい、どうしたらよいか分からなくなって立ち尽くすことも、悲しみにくれることもあります。しかし「神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせる」(コリント 二 7:9)とあるように、決して空しくは終わらないのです。

さて、主イエスはこの議員の重大な問題点を見抜いておられました。彼は大変な金持ちでしたが、それは当時、世間の常識としては、神の祝福のしるしであると考えられていました。けれども、ここで主イエスは、あなたの富と財産が今のあなたには、神の国に入り、永遠の命を受け継ぐ際の一番大きな妨げになっていると言われるのです。

「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」。一度聞いたら忘れられない印象的な言い回しで、主イエスは財産のある者の神の国に入るむずかしさを嘆かれます。いったい私たちはこの御言葉をどう受け止めたらよいのでしょうか。

この金持ちの議員と私たちとの地位や身分や生活状況がいかに違っているとしても、私たちは主イエスが語られた言葉を聞き捨てにすることはできません。この段落の終わりで、主イエスはペトロの言葉を受けて、「はっきり言うておく。神の国のために、家、

妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、この世ではその何倍もの報いを受け、後の世では永遠の命を受ける」と語っておられます。そこでは「だれでも」と言われているのです。また、捨てるべきものとして、愛する家族の者たちが挙げられているのです。考えてみれば、財産よりもさらに断ち切ることの難しいものばかりではないでしょうか。

聖書が認めているように、この世の富も愛する家族も神の賜物であることに間違いはありません。「神のくださったものは感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはない」（テモテ 4:4）のです。しかし、主イエスが鋭く指摘されたことは、それらのよきものが、神を信じ、神に従う妨げとなることがあるということです。富んでいる者や豊かに与えられている者ほどその妨げは大きいのです。私たちの精神的な豊かさや信仰的な富にも同じことが言えるかもしれません。自分の持っているものや自分の積み上げてきたものに固執するとき、それらは神に従う妨げになりかねないのです。

主イエスの言葉を聞いた人たちが「それでは、だれが救われるのだろうか」と言ったことは無理ありません。けれども、戸惑う私たちに、主イエスは「人間にはできないことも、神にはできる」と言われました。主イエスは、私たちを神ご自身の真実と愛によって招いてくださるのです。

「人間にはできないことも、神にはできる」。主イエス一行はほどなくエリコの町に入っていきますが、そこで起こるのは、徴税人の頭で金持ちのザアカイと主イエスとの出会いです。ザアカイの家に入られた主イエスは、不正を暴かれたのでも責められたのでもありません。しかし、ザアカイは立ち上がって「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを4倍にして返します」（ルカ 19:8）と言っています。ザアカイは、主イエスと出会った喜びの中で、自分のような者も、神を信じ、隣人たちと共に生きていけることを知ったのです。そして、自分の身を守るためにこれまでしがみついていた富と財産からも解放されていくのです。

使徒パウロのかつての生き方も金持ちの議員と似たものであったのではないのでしょうか。あの熱心なユダヤ教徒であり、かつ教会の迫害者であったパウロがキリスト者になるなど、本人も含めていったいだれが想像できたことでしょうか。しかし、主イエス・キリストによって、罪の赦しと新しい命をいただいたとき、その喜びと感謝の中で、彼は自由でのびやかな歩みを全く新しく始めることができたのです。

「人間にはできないことも、神にはできる」。ザアカイを生まれ変わらせ、パウロを造り変えた神の真実と力にあずかって、私たちは与えられた賜物と富を、喜んで用いることも、捨てることも、捧げることもできるのです。私たちをお召しくださった神は、私たちが主イエス・キリストに従っていくために必要な知恵と力を与えてくださるのです。